

## 第3学年 社会科学習指導案

指導者 奥田 陽介

### 1 単元名 現在に続く日本と世界

### 2 単元について

#### (1) 単元観

本単元は、現行の「中学校学習指導要領」歴史的分野の大項目(6)「現代の日本と世界」にあたり第二次世界大戦後から冷戦の終結ごろまでの歴史を扱い、我が国の現代の特色を、世界の動きとの関連に着目して学習させることとなっているが、次期学習指導要領ではC「近現代の日本と世界」における(2)「現代の日本と世界」にあたる。この中項目では、第二次世界大戦後から20世紀末ごろまでの歴史を扱い、我が国の現代の特色を、世界の動きとの関連を踏まえて課題を追究したり解釈したりする活動を通して学習することをねらいとしている。その過程において、「冷戦」をキーワードに時代の変化を理解させていきたい。冷戦については、国際連合の発足、米ソ両陣営の対立、アジア諸国の独立、朝鮮戦争、その後の平和共存の動きなどを、我が国の動きと関連させながら扱うように示されている。

平成29年3月に改訂された学習指導要領には、平成20年3月改訂の学習指導要領社会科においての課題として、主体的に社会の形成に参画しようとする態度や、資料から読み取った情報を基にして社会的事象の特色や意味などについて比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力の育成が不十分であることがあげられた。また、社会的な見方や考え方については、その全体像が不明確であり、それを養うための具体策が定着するには至っていないことや、近現代に関する学習の定着状況が低い傾向にあること、課題を追究したり解決したりする活動を取り入れた授業が十分に行われていないこと等も指摘されている。

生徒は1,2年生の授業を通して、文明の発生から近代国家の歩みまでを学んできた。3年生となり、前単元で二度の世界大戦とそれに関わった日本の動きを学んだ。バブルが崩壊し、平成の世となり、インターネット等により世界とつながることがあたり前の時代に誕生した生徒にとって、戦争は過去のものとして捉えている。また、知識として日清戦争や日露戦争等の流れは理解しているが、「その争いがなぜ起きたのか」といった背景とのつながりは認識不足の傾向が見られる。前単元では、二度の世界大戦を扱うなかで、それに関わった国々の思惑、戦争までに至ってしまった背景を理解させることを重視し、授業を展開した。本単元では、戦後から現在までの流れを学ぶことになるが、「戦後」という語句はあくまでも二度の大戦のことであり、争いは現在も続いていることに気付かせ、その要因にはアメリカとソ連を軸とした資本主義諸国と社会主義諸国の対立である「冷戦」が関係し、終結とされた20世紀後半以降もその影響は続いていることを理解させたい。

先日、韓国と北朝鮮による南北首脳会談が行われた。時の流れとともに世界は常に動いていることに気付かせ、今を生きる者として世界はどのように動き、どこに向かっていくのかを正確に捉え、変化する世界に対応し、どのような将来をつくっていくべきかを考え、行動できる生徒を育成していきたい。

#### (2) 生徒観

3年1組は男子20名、女子19名の計39名のクラスである。学習意欲は比較的高い反面、挙手や発言に対する積極性に欠け、受け身型姿勢の生徒が多く見られる。アンケート結果からも自分の考えを書くことができると回答したのが63%に対して、言葉で伝えることができると回答したのは38%だった。また、小グループによる活動の重要性を認識しており、80%の生徒が「新しい発見ができる」、「考えを深められる」と意欲的な回答しているが、聴くことが好きという生徒が33%、発表することが好きという生徒は41%にとどまっている。そのことから、授業で得た知識を活用し、自分の考えをしっかりと構築することができたり、学習課題に対する考えを文章化したりすることはできるが、言葉で表現することに難しさを感じている生徒が多いことがわかる。

社会科の歴史的分野に関しては、最近まで学んでいた「近代」に対して興味を示している生徒が多くいるが、家で新聞やニュースをよく見ていると回答したのが63%、たまに見ると回答したのが28%で、多くの生徒が現在日本や世界で起きている出来事に関心をもっている。しかし、日本の歴史と世界の歴史の流れ（出来事）をリンクさせることに対しては、できると答えたのが23%に対して、少しならできると答えたのが68%だったことから、社会的事象を広い視野で見えていくことの重要性を伝えていきたいと考えている。

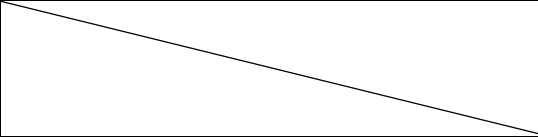
### 3 単元の指導目標

- (1) 戦後の民主化政策や冷戦によって起こった世界の変化に対して関心をもたせ、現在起きている歴史的な事象について、積極的に読み解こうとする態度を育てる。
- (2) 冷戦が発生した経緯や背景、冷戦下の世界で起きた事象、冷戦終結後に起きた事象を適切にとらえさせ、冷戦がもたらした社会の変化と要因を多面的・多角的に考察し、表現させる。
- (3) 冷戦の影響から起こったおもな紛争や戦争について、資料を活用して有益な情報を適切に選択し、読み解いたり、地図を用いて地理的視点から考えさせたりする。
- (4) 冷戦の発生から終結までに起こった世界の大きな動きをふまえ、日本の政治・経済・文化の発展について理解させる。

### 4 単元の評価規準

社会的な事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的な事象についての知識・理解
戦後の民主化政策や冷戦によって起こった世界の変化に対して関心を高めるとともに、現在起きている歴史的な事象について、意欲的に読み解こうとしている。	冷戦が発生した経緯や背景、冷戦下の世界で起きた事象、冷戦終結後に起きた事象を適切にとらえ、冷戦がもたらした社会の変化と要因を多面的・多角的に考察し、適切に表現している。	冷戦の影響から起こったおもな紛争や戦争について、資料を活用して有益な情報を適切に選択し、読み解いたり、地理的視点から考えたりしている。	冷戦の発生から終結までに起こった世界の大きな動きをふまえ、日本の政治・経済・文化の発展についての知識を身に付けている。

### 5 単元の指導計画及び評価計画（全10時間、本時10時間目）

次（時数）	主な学習活動	評価
1 (1)	「争いがなくなるのはなぜだろう？」 現段階における、問いに対する自分なりのとらえ方を書かせる。	 ・冷戦の構造が資本主義と社会主義の対立であったことを適切に表現している。 <b>【思考・判断・表現】</b> ・対立から戦争・分裂に至ったことを理解している。 <b>【知識・理解】</b>
	「冷たい戦争とその影響」 ☆戦後に新たな対立が発生したのはなぜだろう？ ・地図や諸資料から、冷戦の構造である資本主義と社会主義の対立はイデオロギーの違いから発生したものであることを読み取る。 ・世界各地で東西陣営の対立の構造が生まれたことを理解する。	

<p>2 (1)</p>	<p>「敗戦からの出発」</p> <p>☆日本はどうやって敗戦から立ち直ったのだろうか？①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・終戦後、日本の統治はアメリカ軍を中心としたGHQ主導であったことを理解する。</li> <li>・当時の写真や資料から、終戦後の人々の生活に対する厳しさに気付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GHQの統治政策の特徴を適切にまとめている。【思考・判断・表現】</li> <li>・諸資料から、敗戦が人々にあたえた苦しみを読み取っている。【技能】</li> </ul>
<p>3 (1)</p>	<p>「新時代に求められた憲法」</p> <p>☆日本はどうやって敗戦から立ち直ったのだろうか？②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦後、政治・経済・教育などの民主化がどのように進められたのかを理解する。</li> <li>・日本国憲法は、平和と民主主義への大きな期待を背景に制定されたことに気付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民主化政策のねらいを考え、適切に表現している。【思考・判断・表現】</li> <li>・日本国憲法にもりこまれた3つの期待を理解している。【知識・理解】</li> </ul>
<p>4 (1)</p>	<p>「日本の独立と世界の動き」</p> <p>☆独立を回復した日本に発生した新たな課題は何だろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冷戦下、日本はアメリカとの関係を重視しながら、単独講和締結を選択し、国際社会に復帰したことに気付く。</li> <li>・平和条約締結後、保守勢力と革新勢力が対立する55年体制が続いていくことを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本がアメリカを中心とする国々と単独講和を締結した経緯を適切に表現している。【思考・判断・表現】</li> <li>・安保闘争について、賛否両方の立場を理解している。【知識・理解】</li> </ul>
<p>5 (1)</p>	<p>「冷戦下での日本とアジア」</p> <p>☆ベトナム戦争が世界に与えた影響は何だろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベトナム戦争が起こった理由を東西冷戦との関わりから気付く。</li> <li>・日本が近隣諸国との国交正常化を進めた経緯を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベトナム戦争の経緯を適切に表現している。【思考・判断・表現】</li> <li>・国交正常化の背景にはアメリカの影響があることを理解している。【知識・理解】</li> </ul>
<p>6 (1)</p>	<p>「経済成長による日本の変化」</p> <p>☆日本はどのような問題をのりこえて、経済成長を果たしたのだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高度経済成長によって、短期間にインフラが整備され、国民の生活が向上したことを理解する。</li> <li>・経済成長にともなって、公害問題や貿易摩擦などの問題が発生した経緯を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実質経済成長率や家電の普及、所得の増加などから高度経済成長の意味を理解している。【知識・理解】</li> <li>・経済成長によって現れた公害問題や貿易摩擦の問題などを調べて、適切にまとめている。【技能】</li> </ul>

7 (1)	<p>「大衆化・多様化する戦後の文化」</p> <p>☆「巨人・大鵬・卵焼き」という言葉はどうやって誕生したのだろうか？</p> <p>・戦後復興期と高度経済成長期におけるマス＝メディアの変化を理解する。</p> <p>・戦後復興期と高度経済成長期にかけての時代の特色を政治や社会, 産業, 文化を通して理解する。</p>	<p>・戦後復興期や高度経済成長期を代表する文化人を意欲的に調べ, レポートにまとめている。【<b>関心・意欲・態度</b>】</p> <p>・戦後復興期と高度経済成長期にかけての時代の特色を適切に表現している。【<b>思考・判断・表現</b>】</p>
8 (1)	<p>「グローバル化が進む世界」</p> <p>☆どのようにして冷戦が終結し, その後の世界にどのような変化を与えたのだろうか？</p> <p>・冷戦が終結した経緯と, 関連した歴史的事象について理解する。</p> <p>・冷戦の終結後, 紛争やテロが起こっている地域に関心を持ち, 背景や要因について理解する。</p>	<p>・社会主義体制の改革が終結をもたらしたことを理解している。【<b>知識・理解</b>】</p> <p>・冷戦後に起こった紛争や戦争について適切に読み取っている。【<b>技能</b>】</p>
9 (2)	<p>「世界子ども平和会議で提案しよう①」</p> <p>☆なぜ, 争いはなくならないのか, 日本のできることは何なのかを考えよう。</p> <p>・冷戦終結後に起きた歴史的事象や経済格差について考察し, それぞれの発生理由や経緯を理解する。</p> <p>・日本がこれまでにしてきた国際貢献を知り, 世界の平和に向けてできることを考える。</p>	<p>・冷戦が世界に与えた影響を理解している。【<b>知識・理解</b>】</p> <p>・日本がこれまでに行ってきた国際貢献について適切に読み取っている。【<b>技能</b>】</p>
本時は 2時間 目	<p>「世界子ども平和会議で提案しよう②」</p> <p>☆なぜ, 争いはなくならないのか, 日本のできることは何なのかを伝えよう。</p> <p>・学習活動については本時の授業展開を参照</p>	<p>・評価については本時の評価を参照</p>

## 6 本時の授業

(1) 日 時 平成30年6月30日(土)

(2) 場 所 山梨大学教育学部附属中学校 赤レンガ館

(3) 題材名 「世界子ども平和会議で提案しよう」

(4) 本時の指導目標

- ・他者との意見交換に意欲的に取り組み, 自分の考えとの相違点を適切にまとめることができる。

【**関心・意欲・態度**】

- ・これまでに学んだ冷戦に対する知識や世界に与えた影響について自分なりの考えをもち, 世界を平和に導いていくための日本の役割を適切に表現することができる。

【**社会的な思考・判断・表現**】

## (5) 全体研究との関わり

### ①本時における「見方・考え方」のイメージ

生徒は戦後の歴史を学ぶうえで、「冷戦」をひとつの柱としてきた。一般的な冷戦の捉えとしては戦後の世界をリードしていこうとする、アメリカ主導の資本主義諸国とソ連主導の社会主義諸国の対立が、朝鮮戦争やベトナム戦争などの代理戦争を生み、東ヨーロッパ諸国の民主化によって、幕を閉じたことになっている。しかし、冷戦の象徴ともいべきベルリンの壁が崩壊したり、マルタ会談で冷戦の終結が宣言されたりするなど、目に見える終結を迎えたにも関わらず、いまだに朝鮮半島情勢や中東情勢は予断を許さない状況にある。そこで、生徒には「なぜ世界は平和にならないのか」という学習課題を提示し、現在起きている争いの中には冷戦の影響によるものもあることに気づかせ、争いの構図を読み解かせていきたい。

また、他者と意見交換をすることによって、自分が結論付けた冷戦に対する考えはひとつの見方や考え方であって、さまざまな視点から考えたり、視点どうしを関連させたりすることによって、それまでとは違った冷戦に対する考え方が構築できることを期待している。

これは、本校社会科が、研究の拠り所としている池野範男氏の見解にある第三の「見方・考え方」（本校社会科では「メタ認知型見方・考え方」と名付けた）に通ずると考えられる。

### ②本時における「見方・学び方」を働かせた学びを通して育成した資質・能力を見取る評価

#### ・学びの記録の活用（形成的評価）

生徒が単元を通して、学びから何を得て、何が足りなかったのかを気付くことができるように、毎時間の授業のまとめとして、学習課題に対する自分なりの答えや授業を受けたことによって生まれた疑問点を記述し、学びを振り返る場面を設定した。その活動は生徒が自らの学びの成果を見取るために有効であるとともに、指導者にとっても自らが設定した学習課題に対して、生徒がどこまで迫ることができたのかを見取るうえで重要だと考える。その際、注意しなければならないのが、生徒の記述に対する指導者の反応である。指導者のねらいと生徒の得た学びにズレが生じていた場合は、それを適切に正さなければならないし、生徒の学びの理解度によって次時の学習展開を設定しなければならない。さらに、生徒自らが単元を通しての学びの変容を見取ることができるように、単元の始めと終わりに「冷戦」に対する考えを記述させ、学びの深まりに気付くことができるようにしたい。

#### ・他者との意見交換の場を設定

生徒が学びから得たものを活用し、学習課題に対する答えを他者に分かりやすく伝えようと自らの考えを構築するために発表の場を設けることは重要である。本時では、他者と意見交換することで、自分の見方・考え方では見出せなかったところを他者の意見から気付かせたい。さらに、他者の考えを活用し、学習課題に対する自らの考えを再構築することができるようにしたい。

#### ・パフォーマンス課題の設定（総括的評価）

生徒が単元を通して学んだ知識やスキルを文脈において使いこなせるような「永続的知識」を獲得しているかどうかを確かめるためにパフォーマンス課題を設定したい。その評価に関しては、多様な表現が予想されるので、ルーブリック（評価指標）を取り入れ、授業者と生徒が客観的な尺度としてその達成状況を判断し、評価を共有することで、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育成していきたい。

## (6) パフォーマンス課題

### ○世界子ども平和会議で提案しよう。

今年の8月、世界122の国や地域から200名を超える青少年が参加する国際会議がニューヨー

クで開かれることになり、附属中3年1組からも代表者を出そうと選考会を行うことになりました。本時では国際会議で「なぜ、争いはなくなるのか？日本のできることは何なのか？」について提言するためのレポートを作成し、発表します。日本の代表として、他国の子どもたちにも「なるほどなあ」と思わせることができるような発言を考えてみてください。

(7) 展開

	教授活動 (○発問, ◇指示)	教授・学習活動	資料	習得させたい知識 予想される反応
導入 5分	<p>[1 学習内容の復習]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの復習</li> </ul> <p>○冷戦終結後に起きた歴史的 事象や日本がこれまでにして きた国際貢献を振り返ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までに学んだことを画像 を用いて振り返り、本時の学習 課題の提示に生かす。</li> </ul>	<p>[T:教師 S:生徒]</p> <p>T: 質問する</p> <p>S: 資料を見て, 答える</p>	<p>プロジェクター による画像提示</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・湾岸戦争</li> <li>・同時多発テロ</li> <li>・南北首脳会談</li> <li>・米朝首脳会談</li> <li>・PKO</li> <li>・開発援助</li> <li>・資金協力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷戦が終結し、世界に平和が訪れるはずなのに、いまだに平和にならないのはなぜだろう。</li> <li>・日本が行っている技術支援や資金協力が多くの国で行われていることにおどろく。</li> </ul>
展開 ① 10分	<p><b>学習課題:なぜ、争いはなくなるのか、日本のできることは何なのかを伝えよう。</b></p>			
展開 ② 15分	<p>[2 学習課題を吟味する]</p> <p>○世界子ども平和会議に向けてレポートを作成しよう。</p>	<p>T: 質問する</p> <p>S: 思考する</p> <p>S: 記述する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習シート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いまだに続く争いの原因のひとつに冷戦の影響があることに気づく。</li> <li>・世界の平和のために日本ができることに気づく。</li> </ul>
展開 ③ 10分	<p>[3 学習課題に対する考えを他者と交換する]</p> <p>◇2分間で自分の考えを他者に伝えよう。</p> <p>○他者の考えを聞き、自分との相違点や気づかなかったことをまとめよう。</p>	<p>T: 指示する</p> <p>S: 他者と意見を交換する</p> <p>T: 質問する</p> <p>S: 思考する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習シート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えが他者に正確に伝わったのだろうか。足りなかったことは何だろうか。</li> <li>・他者の考えを聞き、違う視点で物事を捉えることができることに気づく。</li> </ul>
展開 ④ 10分	<p>[4 他者の発表を評価する]</p> <p>◇グループで最も素晴らしい発表をした人を選出し、全体で共有しよう。</p>	<p>T: 質問する</p> <p>S: 思考する</p> <p>S: 発表する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習シート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分と選出された人の発表を比較し、自分に足りなかったことや見習うべきことに気づく。</li> </ul>

ま と め 10 分	〔5本時のまとめ〕 ○本時の学習で学んだことや考えたことを学びの記録に書き、振り返ろう。  ○ルーブリックを用いて本時の自分の学びを評価しよう。	T：質問する S：思考する	・学びの記録  ・ルーブリック	・学びの記録を振り返ることによって、単元を通して学びが深まったことに気づく。  ・自己評価することによって、次回の課題に気づく。
------------------------	---	------------------	-----------------------	--

#### (8) 本時の評価

- ・他者との意見交換に意欲的に取り組み、自分の考えとの相違点を適切にまとめることができたか。

【関心・意欲・態度】

- ・これまでに学んだ冷戦に対する知識や世界に与えた影響について自分なりの考えをもち、世界を平和に導いていくための日本の役割を適切に表現することができたか。

【社会的な思考・判断・表現】

#### 本時のルーブリック

レベル	パフォーマンスの特徴
5	なぜ争いが起こるのかについて、時代の流れと当時の状況を把握して最適な内容で具体的に語られている。日本のできることについて、これまでの日本の国際貢献を例に根拠をもって主張している。条約・同盟、政治、経済など、複数の事柄を総合的に関連付けて主張している。主張に最適な資料やデータを用いて効果的に活用している。全体的に文章や流れが分かりやすく、事実の解釈の仕方が完全で、主張にも説得力がある。
4	なぜ争いが起こるのかについて、時代の流れと当時の状況を把握して具体的に語られている。日本のできることについて、これまでの日本の国際貢献を例に根拠をもって主張している。条約・同盟、政治、経済など、複数の事柄を総合的に関連付けて主張している。主張に必要な資料やデータを用いて効果的に活用している。事実の解釈の仕方は完全である。
3	なぜ争いが起こるのかについて、時代の流れと当時の状況を把握した具体的な例が書かれている。争いが起こる原因について条約・同盟、政治、経済など、いずれかについて史実にもとづきはっきりとした主張をしている。日本の貢献について主張している。ただし、主張に必要な具体的な資料やデータが少ないか扱いがやや浅い。
2	主張はあるが、根拠になる史実のおさえが弱い。または取り上げた史実の解釈に誤りがある。史実を取り上げて説明しているが、主張は感想にとどまっている。
1	事実が羅列されているだけになっていて主張がない。 または未完成である。

#### 【参考文献】

- ・「中学校学習指導要領 社会編」 文部科学省 2008
- ・「中学校学習指導要領 社会編」 文部科学省 2017
- ・「国家・社会の形成者を育成する中学校社会科授業の開発」 日本社会科教育学会 2004
- ・「そうだったのか！ 現代史」 池上彰 集英社 2007
- ・「戦争の条件」 藤原帰一 集英社 2013